

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 22 号

平成 3 年 9 月 15 日発行

編集者 大野 良 樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市
瀬谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

大学の研究室から現場の実践へ

（前魚類生理学講座教授 藤野和男）

職場紹介 自己管理の下、実践していく集団を目指す

（7A 柳澤明美）

関東地区懇親会に参加して（2A 丸 房代）

水産学部の就職指導について（学生課 熊谷ティ子）

平成 3 年度三水会総会開催

Information

※市場・流通関係会員親睦会の開催

※藤野先生を囲む会の開催

※小林教授還暦祝賀パーティーの開催

※海・山の幸セット通信販売



す立て（7月28日）

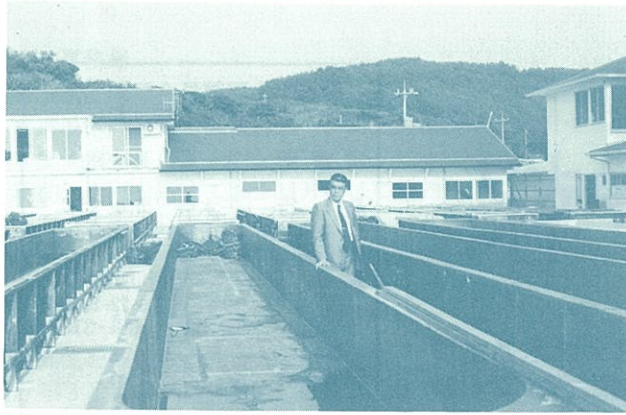
大学総会で表彰を受ける北釣会



大学の研究室から現場の実践へ

前魚類生理学講座教授 藤野和男

哺乳類のイルカ、クジラ、オットセイや魚類のカツオ、マグロなど大回遊性海産動物の血液型、アイソザイムを指標とする種族判別を含む生態遺伝学研究で二十年余を過ぎた後、私は、三陸の地に赴任して、更に二



十年近い歳月が経過した。その後半では一部、前半の継続と締めくくりを行うと共に、大部分の時を、行動半径が前記とは対照的に小さな貝類など増養殖動物の遺伝・育種学研究で過ごした。その中、特に最近十年間は、我国内外において急速に進展した発生遺伝学を基盤とする染色体工学の手法を導入して育種技術の充実・体系化を図り、略々、所期の目標を達し得たと思っている。その間、常に留意した点は、染色体セット操作技術の適用の効果と影響の具体例並びにその発現機序についてである。学問の流れとして捉えれば、集団遺伝学の手法を柱として、水産動物集団を対象に用い、前半では生態学と遺伝学、後半では発生学と遺伝学の融合を試みたことになる。「大学の教育・研究は、現象の観察・分析・総合を通じて実証可能な普遍的原理・法則の究明へ向けての努力・精進を通じて、物の見方、考え方を体得することにあり」と私は心得え、三

水会の諸兄とのめぐり逢いの中でもその様に努めて来た。是様な四十年の跡を水産学の視点から見れば、前半の二十年は野生動物の資源研究すなわち資源管理に、後半の二十年は増養殖動物の遺伝・育種研究すなわちその応用に係わるものであった。それらの具体的内容についてここで触れるのはいささか場違いだが、一言したい。

その一つは、前半期の研究の動機・目標でもあった「資源管理に資する」意図をそれ以降四分の一世紀余に亘って進化した「濫獲・資源の涸渇・絶滅の危機」の現実との乖離が年毎に拡大し、一向に有効な歯止めがかかりそうにない状況についてである。当前・当局者はこの成りゆきの一部始終をご存じのはずなだが……。

もう一つは、近年急速に顕在化しつつある環境・生態系保全に対する赤信号急増の現実についてである。革新技術適用の効果・影響が屢々両

刃の剣のそれに譬えられる事例が日常茶飯事化しつつある。前述の遺伝・育種技術も一部それに類似の性格を備えている。要は、その本質・機序の正しい理解とそれに基く情況・條件に応じた的確な使い方にある。

三陸の地での十九年間、学園内外の多くの方々から一方ならぬご支援・ご協力を戴き、大学の研究室で三水会々員の諸兄と共にした精進の果実として得られた遺伝・育種学研究成果を、今後、社会のニーズに呼応しつつ、現場での実践を通じて、賢く新しい方途開拓に残された歳月を過したいと念願している。これこそ北里精神の具現と心得ている。そして、終りに、獲る漁業から作る漁業、更に買う漁業への変遷・輪廻から脱脚して、賢い漁業の夢実現を期待したい。

(北里大学名誉教授・日本学術会議育種学研究連絡委員会委員)。

〈職場紹介〉

自己管理の下、実践していく集団を目指す

柳澤明美(7A)

地価の高騰、株式評価額の上昇等で相対策などが必要になってきた今、生命保険会社も金融機関としての位置付けが強くなってきました。そんな時代の流れの中で、十二年前に発足したリーブ営業部（法人職域営業部）更に、二年前からは、四大新卒のみ採用のステラ営業部を加えた特別営業組織があります。

私の勤め先である日本生命ライラックオフィス札幌は、このような特別営業組織である六営業部を総括する支社で、今年四月に出来たばかり。業績管理、業務企画、人事採用計画、マーケティングリサーチ及び開拓イベント企画など、あらゆる営業支援業務を行うところです。しかし、人員は、支社長、調査役を含



左側が柳澤さん

で完結。と言う事を基本としています。ある一つの事を始めると、他の人がサポートする。運営するテーマによってその関係は逆転します。その他、各メンバーには三カ月・半年・一年などのスパンでテーマが

め、たったの一〇名での運営です。とにかくい・そ・が・し・い・毎日ではありますが、ゼロ発の運営という事で、既成概念にとらわれることなくいろいろ起案していく。そんなところに面白みを感じて毎日を過ごしています。

勿論、組織の中での運営ですから、色々と指示は受けますが、一つのテーマが与えられると、企画から予算見積もり、運営までを立案し、企画書を提出します。オフィス内でのミーティングで、内容を練り直し、決定事項として、営業部長会議に提出します。

その後の運営も、担当者が、リーダーとして、各メンバーに指示をします。ここでは、一テーマは担当者

与えられていて、それについては、常に提案を続けます。

こんなふうに書いていると、なにかとても高度な事をしているように見えますが、実際のところは、「こんなの面白いよね」

「やってみよう」
のような、ノリでやっている事が多いのです。

通常の事務業務を除くと、これをしてはいけないという制約がない。今の状況において、何が必要か。また、どう変えていかなければ行けないかを常に考え、自己管理の下で実践していく集団を目指しています。

このニッセイに転職して三年目の今ある事に対して、どんな見方で接するかで随分違います。（自分が）置かれてあるポジションの中で、どれだけ自分をアピール出来るか、自分らしさをプロモーション出来るか、そして、その積み重ねが実現に繋

がっていくように思います。

文末ではありませんが、今年三月三十日に行なわれました第二回・三水会北海道地区親睦会。

幹事をさせて頂いたのですが、遠く根室、函館、網走からお越し頂きました。私も含め、異動の時期であったため、準備不足、日程等皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

お互い初めて会う方も多いメンバーですが同窓生と言う事で直ぐに同じ空気に包まれた楽しいひと時でした。また、一期の先輩から平成三年卒業生までの参加で、時代の流れを感じました。是非、次回も一層のご参加を楽しみにしております。会社は、J R札幌駅の直ぐ前です。ご来札の際は、是非ご連絡下さい。末筆になりますが、皆様の一層のご成功をお祈り申し上げます。

北里大学三水会北海道地区事務局長の連絡先は左記のとおりです。

顧問 斉藤 博 司

千歳市白樺五丁目一七

☎〇一五三二一三一六一

札幌連絡先 札幌市豊平区西岡四条二丁目四一三（武田）

☎〇一一八五六二二三一七

☎〇一一二三一一三〇四六（日生ライラック）

関東地区懇親会に参加して

丸 房代(2A)

盛夏、七月二十七日、す立て遊びに参加しました。前回のす立て遊びにも家族全員で参加し、好評を博しましたので今年も張り切って、嫁ぎ先の父や母を含めた私たち家族、そして実家の父母や妹家族、総勢十三人(大人八人子供五人)と大所帯で遊ばせて頂きました。この人数には皆さんにあきられてしまうでしょうがそれには理由があります。ご存知の方は少ないと思いますが、何を隠そう私の実家はす立ての行なわれた金田海岸とは目と鼻の先、車で十分とはかかりません。



以前は金田地区と同様、海苔の養殖とアサリ採りをして生計を立てていました。それが二十年余り前になるかと思いますが、工場誘致の為に東京湾埋め立てが行なわれて袖ヶ浦市の海はなくなっていました。それ以来、海へ出ることもめっきり少なくなった実家の父と母はこのす立て遊びを非常に喜び、アサリ採りの本領を發揮しました。母などは「名人」と自画自賛しております。従ってこの日のアサリ掘り大会はこの母と総勢十三人のおかげで優勝は我が家族のものになりました。

幹事の方が蒔いた十個の「黄金のあさり」はひとつも探せませんでしたが一五kgというアサリは船から降すのに苦労しました。それでも皆大喜びでした。そのほかにも午前中に汐の引くのを待ちかねて、す立てに夢中に

なったおかげでエビ三匹、石ガレイ三匹、石ガニ五匹あまりという漁獲でした。そしてさらに皆さんには気の毒としか言いようがありませんが、アサリよりもたくさん目についたバカ貝(アオヤギ)も持てない位採ってきました。幹事の方が説明しておられた通り、砂をたくさん自分の体の中に取り入れておられるバカ貝は、慣れた人でなければその砂を取り除いて食卓にのせることは難しいとのことでした。しかしわが家は地の利を生かしさらに実家の母の活躍でおいしくおいしく頂くことができました。

前日までと変って懇親会に集まった私たちのために空も薄ぐもりで、す立て日和。海風に吹かれながら昼寝してしまいうちの子供や汐の引くのを惜しむように水しぶきをあげる子供たち、カニにはさまれたり魚を追いつめて父親を大声で呼んだり、大人も子供も楽しい時を過ごしました。船上での昼食も新鮮な魚を使つての天ぷらや煮付ともおいしく頂きました。子供たちもおにぎりやおやつを頂いて大喜びの一日でした。

幹事の方々のご苦労のおかげで夏休みの楽しい思い出になりました。来どうもありがとうございました。

年もどうぞよろしく願います。いつまでも家族で楽しめる親睦会であって欲しいと思います。

付記

母、秘伝のバカ貝の調理法をお教えしましょう。まず大きめのナベにたっぷり水と簡単に洗ったバカ貝を入れて火にかけます。沸騰してバカ貝が皆、口をパクリ開くまでゆでます。(その時間、バカ貝の量にもよりますが一〇〜二〇分位カナ!) 全部口が開いたら金のボールなどで(別のナベを利用してもよい)にゆで汁の三分の二をそっと移します。(ナベの底には砂がたくさんたまっているはずですから砂が入らないように)次に貝がらからバカ貝を落とします。(熱いですから火傷に気を付けて)貝がらからはずしたバカ貝を、す立ての時にアサリや魚を入れた青い網に入れて(この網でないとまずいのです)水道水を流しながらそのかたい網でのごしごとバカ貝をもみ、貝の中の砂を全部出してしまいます。そのあと、最初に別にしておいたゆで汁の中に漬けておくと味が良くなります。

さあ!

ワサビ醤油で召しあがれ!

水産学部の就職指導について

— 企業奨学金制度もスタート —

水産学部学生課 熊谷 ティ子

三水会の皆様には、多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

三陸キャンパスは、新棟の建設も着工し、水産学会秋季大会をひかえ夏休みにも拘わらず、なにやらせわしない様子となっております。

新棟は、第四校舎北側（現在二年次生駐車場）に三階建（床面積三、一六四㎡）、大教室（収容定員二四〇名）二室、中教室（収容一二〇名）二室、大学院講義室、セミナー室、食堂、ホール、売店からなり、来年の七月に竣工の予定です。在学生の教育と福利厚生が充実するものと期待しています。

本年十月七、九日におこなわれる日本水産学会大会の準備の方も、狭い三陸のキャンパスと不便な交通事情の中で、よりよい大会にと先生方が苦心なさっております。ぜひ成功していただきたいと思います。

さて、今回の寄稿では、学生課での就職指導についてお知らせします。第二十一号の三陸キャンパスの近況

の中でも、就職の状況にもふれておりましたが、スタッフの少ない学生課で効率よく就職指導をする為のマニュアル作りと実践を学生指導委員長兼学生課長がまとめられましたので、簡単にご説明申し上げます。

①就職ガイダンス

二年次生には六月に企業研修と本学部の就職の状況を説明します。三年次生には、十二月と一月に本学部の就職指導の概要と就職活動体験談、適性検査、外部講師の講演等を行います。四年次生には、四月に効果的な就職活動についての一般的な指導を行います。

②企業研修会

実績のある優良企業四一社の協力を得て、企業での体験学習の機会を提供することが目的で、二、三年次生を対象とし、夏期および春期の休暇に行なうものです。

③企業研究会

四年次生を対象に行なうものです。やはり実績のある企業にお願いしております。今年度は、昨年度の就職活動の実績をもとに四月、五月に合計七日間。一日当り十一社、一社当り三十分の説明の後、グループ面接も行ない、参加学生は累計一、〇五〇名でした。

④企業のデータベース

このデータベースは、企業二、四〇八社（八月一日現在）の求人票の内容を、企業名・職種・所在地・資本金・初任給等をコンピュータに入力したものです。学生は任意に設定した項目でこれを検索し、独自のリストを作成することができます。このシステムは、多数の企業の中から希望に合った会社を効率よく見つけ出すのに役立っています。

⑤コンピュータ室の設置と活用

マイクロコンピュータ、PC九八を一〇台備えました。二、三年次生は、クラブ活動、また四年次生は卒業論文作成等に活用されています。また備付けの自習用ソフトを利用し、コンピュータの基本を学習できます。

⑥公務員試験対策

公務員志望者に対して、受験指導を行なっています。

⑦奨学制度の充実

日本育英会や地方公共団体からの奨学金が一般的ですが、水産学部では約一年間の準備期間の末に、企業をスポンサーとする奨学金を始めました。

企業では、労働力不足を反映し一人を採用する為に宣伝媒体へ膨大な投資を余儀なくされているようです。この投資の一部を少額（月二万円位）で相方が負担にならない程度の奨学金を貸与し、人材の育成に活用させて頂きたい旨を来学した企業に要望し、協賛を求めているものです。この奨学金を多くの学生が利用し、学生生活を潤いのあるものとし、余裕を持って社会人となってくれることを望んでおります。現在多数の企業の賛同を得ておりますが、本年度二社からの支給が始まりました。以上が就職指導の概要となっております。どれをとりましたが、三水会員の皆様方のご協力を得るものが多くあります。今後とも後輩の為にアドバイスを賜りたくお願いいたします。

平成2年度三水会収支決算

支 出 の 部			取 入 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
1. 事業費	2,910,000	2,579,546	1. 部会助成金	3,973,401	3,973,401
(1)会報発行費	1,000,000	1,066,374	2. 預金利息	130,000	189,677
(2)学部だより配布費	360,000	329,600	3. 前年度繰越金	738,625	738,625
(3)同期会等助成費	100,000	30,000	4. 雑収入	200,000	169,500
(4)セミナー開催費	230,000	254,142	5. 1～7期生	100,000	-
(5)親睦会費	650,000	457,080	終身会費		
(6)大学・学生との懇談会費	150,000	22,450			
(7)学友会助成費	250,000	250,000			
(8)就職ガイダンス費	70,000	69,900			
(9)漁船海難遭見育英会寄付	100,000	100,000			
2. 運営費	2,030,000	1,661,550			
(1)印刷・通信費	430,000	255,513			
(2)会議費	450,000	429,620			
(3)総会費	300,000	231,707			
(4)事務局費	700,000	610,775			
(5)慶弔費	50,000	65,000			
(6)外渉費	100,000	68,935			
3. 予備費	202,026	830,107			
(1)予備費支出					
(2)次期繰越金		830,107			
合 計	5,142,026	5,071,203	合 計	5,142,026	5,071,203

去る五月十九日(日)午前十一時より、白金校舎薬学部E号館三〇二会議室において、平成三年度本会通常総会が開催され、本年の事業計画、予算等が審議、決定されました。

「平成三年度三水会総会開催」

総会は、代議員本人二二人、委任状出席十九の計四一人の出席のもとで開催され、平成二年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、各種親睦会の開催等を内容とする三年度事業計画、予算案について協議を行い、原案どおりこれを承認しました。

また、今年度は、代議員及び理事の改選年度にあたり、会員及び卒業研究室より推薦を受けた、増殖学科二五名、食品学科二五名の代議員候補者について審議の結果、全員を承認いたしました。続いて、新代議員の中から一七名の理事および二名の監事を選出いたしました。

総会において承認された本年の事業計画、予算、代議員、理事、監事は次のとおりです。

平成三年度三水会事業計画

- 1、会報の発行
同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。
- 2、「水産学部だより」の配布
本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。
- 3、会員の現況の把握
全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努める。また、名簿管理事務の学部同窓会への段階的移行に伴い、必要な体制整備を行う。
- 4、同期会等の助成
同期会、講座別同窓会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。
- 5、三水会セミナーの開催
水産を問わず様々なテーマをとりあげ、これに関連する職域の会員を対象としたセミナー形式の会を開催する。
- 6、親睦会の開催
関東地区会員を主な対象とした親睦会並びに水産物の市場流通に関連する職域の会員を対象とした親睦会を開催する。
- 7、懇談会の開催
大学、水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。
- 8、学友会助成
クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。
- 9、就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なう。

役員一覧（理事17名：監事2名）

会 長	長 屋 信 博 (1A)	企 画	田 村 治 (2A)	会 報	島 田 和 明 (1F)
副 会 長	大 野 良 樹 (1A)	企 画	関 口 敬 二 (3A)	名 簿	横 堀 昌 道 (2A)
副 会 長	長谷川 一 敏 (3A)	企 画	畠 山 俊 之 (4A)	監 事	伴 圭 司 (1A)
全学同窓	其阿弥 喜 嗣 (1A)	企 画	佐 藤 伊豆男 (6A)	監 事	佐々木 英 生 (1F)
総 務	石 井 美 華 (4A)	企 画	中 村 栄 (9A)		
総 務	町 野 至 (4A)	企 画	高 橋 明 義 (5F)		
総 務	齐 藤 有紀子 (8A)	企 画	太 田 浩 司 (6F)		

代議員一覧（計50名）

増殖学科：26名

其阿弥 喜 嗣 (1A)	長 屋 信 博 (1A)	伴 圭 司 (1A)	大 野 良 樹 (1A)
横 堀 昌 道 (2A)	田 代 茂 年 (2A)	田 中 和 良 (2A)	田 村 治 (2A)
小 野 十美雄 (3A)	鈴 木 英 之 (3A)	関 口 敬 二 (3A)	長谷川 一 敏 (3A)
石 井 美 華 (4A)	畠 山 俊 之 (4A)	町 野 至 (4A)	小 川 治 男 (5A)
佐 藤 伊豆男 (6A)	齐 藤 有紀子 (8A)	清 水 誠 (8A)	中 村 栄 (9A)
垣 内 省 吾 (9A)	文 博 正一郎 (10A)	高 坂 一 郎 (10A)	平 本 愛 朗 (12A)
西 川 敬 之 (13A)	木 村 康 一 (16A)		

食品学科：24名

石 川 義 行 (1F)	佐々木 英 生 (1F)	島 田 和 明 (1F)	宮 川 忠 彦 (1F)
中 村 年 彦 (2F)	城 真 市 (2F)	佐 藤 敏 行 (3F)	堀 内 岳 郎 (4F)
水 野 幸 司 (5F)	児 玉 高 秀 (5F)	高 橋 明 義 (5F)	坂 本 雅 哉 (6F)
太 田 浩 司 (6F)	飯 塚 信 之 (6F)	川 添 一 郎 (6F)	佐 藤 淳 (6F)
児 玉 雄 司 (7F)	清 康 一 (7F)	三 石 昇 (7F)	池 田 穂 高 (8F)
大 塚 史 (8F)	松 井 完 二 (10F)	本 橋 清一郎 (10F)	逸 見 司 (11F)

平成3年度三水会予算案

支 出 の 部		取 入 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 事 業 費	3,260,000	1. 部 会 助 成 金	4,325,571
(1)会 報 発 行 費	1,100,000	2. 前 年 度 繰 越 金	830,107
(2)学 部 だ より 配 布 費	340,000	3. 預 金 利 息	130,000
(3)同 期 会 等 助 成 費	100,000	4. 雑 収 入	250,000
(4)セ ミ ナ ー 開 催 費	300,000	5. 1 ~ 7 期 生 終 身 会 費	100,000
(5)親 陸 会 費	850,000		
(6)大 学 ・ 学 生 懇 談 会 費	150,000		
(7)学 友 会 助 成 費	250,000		
(8)就 職 ガ イ ダ ン ス 費	70,000		
(9)漁 船 海 難 遺 児 育 英 会 寄 付	100,000		
2. 運 営 費	2,170,000		
(1)印 刷 ・ 通 信 費	300,000		
(2)会 議 費	450,000		
(3)総 会 費	300,000		
(4)事 務 局 費	970,000		
(5)慶 弔 費	50,000		
(6)外 渉 費	100,000		
3. 予 備 費	205,678		
合 計	5,635,678	合 計	5,635,678

10、漁船海難遺児育英会寄付
 漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

平成三年四月六日、水産増殖学科14回（89年）卒、中島 崇裕君が交通事故のため永眠されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。
 ※ ※ ※
 平成二年十二月三十一日、水産増殖学科10回（85年）卒、荒井正人君が永眠されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

From 事務局

市場・流通関係会員親睦会の開催

関東地区の市場・流通関係の会員を主な対象としたセミナーと親睦会を来年1月25日(土)に開催いたします。

現在、企画を進めており11月にはご案内状を差し上げますので、案内状の送付を希望される方は同封の葉書にてお申込みください。

なお、セミナーは、量販店の動向をテーマとした講演を予定しています。

From 会員

藤野先生を囲む会の開催

今年3月に定年退職された藤野先生をお招きし、先生を囲む会を魚類生理学研究室卒業生有志により開催いたします。

研究室の卒業生各位には既にご案内していますが、それ以外の方で参加を希望される方はお申込みください。

開催日時：9月21日(土) 18:00~

開催場所：「ピルゼン」 中央区銀座6-8-7 TEL3571-3443

参加費：6,000円

申込・問合せ先：石井美華 (TEL045-303-3135、横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1)

小林教授還暦祝賀パーティーの開催

小林正典教授は今年8月12日で満60歳を迎えられ、これをお祝いする会を卒業生有志により先生の郷里である長野県諏訪市にて開催いたしますので是非ご参加ください。なお、当日は奥様同伴にてご出席いただく予定です。

開催日時：11月3~4日

開催場所：「湖山荘」諏訪市湖岸通り2-4-28 TEL0266-52-2163

参加費：15,000円(1泊2食、記念品代込み)

申込・問合せ先：石井美華 (TEL045-303-3135、横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1)

From 三陸町

“海・山の幸セット”をお届けします

三陸町の第3セクター「三陸町ふるさと振興株式会社(愛称=サンプル)は、“アワビと鹿の里づくり”をめざして頑張っております。この度、三水会会員の皆さん向けに“第2のふるさとの味”ギフトセットを用意しました。是非お申込みください。

なお、お届けは12月中旬になりますのでご注意ください。

申込方法：同封の申込葉書によりお申込みください。

予約申込期限：平成3年10月31日

商品発送時期：平成3年12月中旬

代金支払：商品に郵便振替用紙を同封いたしますのでお振込ください。

問合せ先：「三陸町ふるさと振興株」

気仙郡三陸町越喜来字所通21-18

TEL0192-44-3241 FAX0192-44-2883

※1~7の商品は、昨年の価格を参考にした見込みの値段で多少増減があることをご了承ください。良心的な価格を設定させていただきます。

※このほかにも新鮮な海の幸を取り揃えておりますのでご利用ください。

	品名	単位	単価	内容
1	活アワビ	100g当	1,800円	1kgで5~7個
2	鮭(オス)	1尾	2,800円	約2kg
3	鮭(メス)	1尾	4,500円	約2kg
4	活ホタテ	1箱	3,000円	殻長12cm、10枚入
5	塩蔵ワカメ	1箱	1,800円	250g×4袋 特級品
6	殻付カキ	1箱	3,000円	20個入
7	活毛ガニ	1箱	6,000円	1kg(3~5杯)
8	薫製鹿肉	1箱	2,500円	ロース骨付き1個
9	"	1箱	3,000円	ロース骨付き1個+鹿肉ウインナー1袋
10	"	1箱	5,000円	ロース骨付き1個+モモ1個
11	鹿刺しロース	100g当	1,200円	フローズン
12	鹿刺しモモ	100g当	800円	フローズン